

「第2次江別市空家等対策計画(案)」に対する 市民意見公募の結果と市の考え方

令和6年2月

江別市建設部建築指導課

■意見の募集結果

募集期間	令和5年12月8日～令和6年1月9日
提出者数	2人
提出件数	2件

■意見に対する考え方の区分

区分	意見の反映状況
A	意見を受けて案に反映するもの
B	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
C	案に反映していないが、今後の参考等とするもの
D	案に反映しないもの
E	その他の意見

※特記事項

パブリックコメントの内容については、提出者の意見をできるだけ正確に表すため、人物を特定できるような固有名詞やご意見以外の記述を除き、可能な限り原文のとおり掲載しております。

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
1	<p>我が家が位置する地域は高齢者世帯が多く、中年世代にあたる息子さん娘さん世代は、札幌で暮らしています。JRの(野幌)駅からも近い地域であるので、利便地なのですが、数件だけポツンと空き家があると、治安面からも街の景観の面からもよくないと思います。空家の固定資産税を上げた国の施策は妥当だと思います。市としても、家の持ち主に住むなり売るなりの選択を迫る試みをしていただきたいです。</p>	<p>「第4章 空き家等の具体的対応策」の「1. (1)効果的な情報発信、相談体制の充実」において、所有者等からの相談に応じることができるよう関係団体と連携して情報発信や相談体制の充実に取り組むこととしており、「3. (2)需要と供給のマッチングの推進」においては、中古住宅の流通市場の活性化を図る必要があるとしております。空き家等の発生抑制や将来に向けての利活用を図る取組みを進めていくことが重要と考えております。</p>	B
2	<p>「人も空家も再利用」 認知症基本法が成立されました。私はまさに70歳でいよいよ退職をせまられています。老後どう暮すべきか、りっぱな施設への入所は安全で幸福でしょうか。慣れ親しんだ家族、家、友人、隣人と暮らし、生涯を終えたいものです。高齢化社会、退職したお父さんの居場所は図書館、家では夫源病とまで言われ、何をすべきか気力を失う人もいます。コワーカー、同じ目的とやりがいを持って生涯働くというスタンスがこれから最も大事なことです。 空家利用は、彷徨う高齢者と両輪で進めるべき対策と考えます。活躍したり、収入を得、コミュニケーションを高める。ひきこもり老人や家族にとっても生き生きと通う場所になるでしょう。</p>	<p>「第4章 空き家等の具体的対応策」の「3. (3)多様な主体による利活用策の推進」において、地域の活性化や利便性の向上などに寄与する施設利用などの活用方策の構築を検討することとしており、様々な分野の関係団体と連携しながら検討を進めてまいります。</p>	E